



特別公開

雛と雛道具

弥千代の雛道具のうち

打掛

当館蔵

2/3(金)
3/7(火)

着物の上に羽織る打掛のミニチュア。井伊家十三代直弼の息女弥千代（一八四六～一九二七）の婚礼調度として調えられた雛道具の一つです。他の雛道具と同様、弥千代の婚礼道具を模して詠えられたと考えられます。身丈はおよそ三十七センチと実物の約五分の一大きさですが、刺繍や染めの技法で、花東模様や亀甲繫模様が巧みに描き出されており、実物と見紛うばかりに精巧に作られています。井伊家の姫君にふさわしい華やかな装いを今に伝えてくれる、貴重な一領と言えるでしょう。

展覧会
情報

テーマ展

祈りと救い

—彦根城博物館仏教美術選—

12月1日
▼
▼
▼
12月22日

テーマ展

中国故事人物の姿

—三国志の諸葛孔明から
詩聖李白まで—

1月1日
▼
▼
▼
2月11日

特別公開

雛と雛道具

2月3日
▼
▼
▼
3月7日

テーマ展

直弼発見！

大老・井伊直弼の職務

3月10日
▼
▼
▼
4月11日

金亀玉鶴



武芸を学ぶ彦根藩士達

江戸時代は、初期と幕末を除けば約二五〇年にわたって戦争のない状態が続いていました。しかし、そんな平和な時代にあっても全国の武士達は本質的には戦闘者であり、常に有事に備えていなければなりません。

それは彦根藩においても同様で、藩士達は弓術・鎗術・剣術などの武芸を学んでいました。ただ、その詳しい内容はよくわかっていません。今回は、現在判明している、彦根藩士達の武芸稽古の状況について紹介します。

江戸時代後期、彦根藩士が武芸を学ぶ施設として存在したのが、藩校の稽古館（のち弘道館と改称）です。稽古館は寛政十一年（一七九九）、内曲輪（内堀と中堀の間）西部、現在の彦根市立西中学校付近に創設されました。稽古館には、藩の知行取藩士およびその子弟で、十五才から三十才までの者は必ず出席することが義務づけられていました。加えて、扶持米取藩士、十五才未満または三十才以上の知行取藩士の出席も可能でした。

藩校では、学問として兵学・天文学・算学などが教授され、武芸は槍術・居

合・剣術・柔術・薙刀・砲術などが教授されてきました。また彦根藩ではそれぞれの武芸には複数の流派が存在していました。

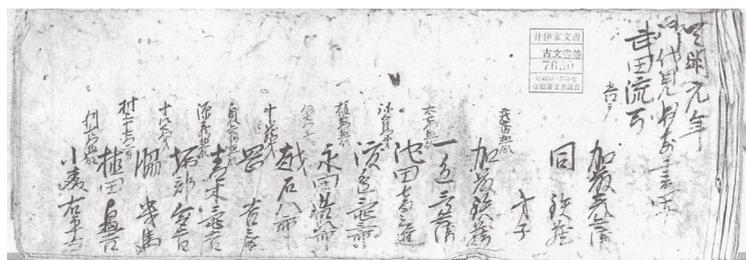
では、藩士らは具体的にどのような武芸と流派を学んでいたのでしょうか。彦根城博物館には、「天明元年御代見出前書写」（彦根藩井伊家文書）という史料があります。この史料には、藩校創設以前の状況ですが、彦根藩士たちの武芸稽古の具体像が記されています。

この史料は、天明元年（一七八一）に彦根において行われた演武の、武芸各流派ごとの参加者の一覧であると考えられます。ここには、演武に参加した藩士延べ一四三六人の人名が流派ごとに記されており、彦根藩における武芸諸流派および武芸稽古者の状況がわかります。

この史料によると彦根藩には、弓術は四流派（日置流・武田流・片岡流・吉田流）、鎗術は四流派（風伝流・心鏡流・宝蔵院流・天流）、剣術は六流派（念流兵法未来記・念流兵法・新念流兵法・正法念流未来記・兵法・知明流兵法・鉄石固メ一流兵法）、居相二流派（新心流・片山伯耆流）があったことがわかります。流派ごとの参加人数を計算すると、この当時、弓術は日置流、鎗術は風伝流、剣術は念流兵法未来記、居相は新心流の稽古者が多かったようです。

またここで注目すべきは、一人の藩士が弓・鎗・剣など複数の武芸を学んでい

る様子が具体的に判明する点です。例えば、越石何右衛門（七代目、二百石）の弟・八郎は、弓術は武田流、鎗術は心鏡流、剣術は念流兵法未来記を学んでいます。また、西堀源蔵（三代目、五十俵八人扶持）は、弓術は武田流、鎗術は風伝流、剣術は正法念流未来記兵法を学んでいたことがわかります。



天明元年御代見出前書写

博物館の正月飾り

年末になると、博物館では能舞台に注連縄と鏡餅を供えて、新たな年を迎える準備をします。また、井伊家当主の甲冑には、太刀と弓を備えた具足飾を施します。これは、武家の正月行事である具足祝に做ったものです。

新春を彩るめでたい飾りを、この機会に是非ご覧ください。

■期間 1月1日(日・祝)～1月10日(火)



◆工事による臨時休館のお知らせ◆

休館：3月8日(水)・9日(木)
一部休室：2月12日(日)～3月7日(火)

工事の進捗状況により前後する場合があります。その場合はホームページなどお知らせします。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願ひします。



スケジュール 12月～3月

3月	2月	1月	12月
<p>11土 直弼発見！ 大老・井伊直弼の職務</p> <p>8水・9木 休館</p>	<p>25土 知的美術探訪 —日本美術に見る「写し」—</p> <p>18土 雑と雑道具</p> <p>11土 開館記念日</p> <p>4土 雑と雑道具</p>	<p>28土 彦根藩の歴史 井伊直虎と井伊直政</p> <p>7土 中国故事人物の姿 —三国志の諸葛孔明から詩聖李白まで—</p>	<p>25日～31日 休館</p> <p>10土 鶴岡会 —信長・秀吉・家康それぞれの分岐点— 城郭博物館三館連携講演会</p> <p>3土 祈りと救い —彦根城博物館仏教美術選—</p>
<p>テーマ展 直弼発見！ 大老・井伊直弼の職務 3/10～4/11</p>	<p>特別公開 雑と雑道具 2/3～3/7</p>	<p>テーマ展 中国故事人物の姿 —三国志の諸葛孔明から詩聖李白まで— 1/1～2/11</p>	<p>テーマ展 祈りと救い —彦根城博物館仏教美術選— 12/1～12/22</p>
<p>常設展示 “ほんもの” との出会い</p>			
<p>2/1-2-12～3/7 展示替により一部休室</p>			
<p>12/23-24 展示替により一部休室</p>			

催し

● 美術講座 ●

知的美術探訪 —日本美術に見る「写し」—

「写し」と聞くとコピー・偽物といったイメージを持つ方が多いかもしれませんが、日本の美術においてオリジナルが絶対というわけではなく、「写し」は、優れた作品の技を学び、伝え、さらには新たな作品を生み出す原動力ともなっています。

■ 日時・内容

- 2月18日(土) 13時30分～15時20分 第1講 「彦根屏風の写しとアレンジ」 (高木文恵)
- 2月25日(土) 13時30分～15時20分 第2講 「能面における本面写し」 (茨木恵美)



能面 獅子口 友水庸久作

- 2月25日(土) 13時30分～15時20分 第3講 「仏像の模刻と霊性」 (古幡昇子)
- 第4講 「湖東焼にみる名陶写し」 (奥田昌嗣子)

- 会場 当館講堂
- 定員 50名
- 資料代 200円
- *1講のみの受講の場合も同額
- 申込 当日受付 (先着順)

● 入門講座 ●

彦根藩の歴史 井伊直虎と井伊直政

戦国時代 遠江国井伊谷(現静岡県浜松市)の国衆(土着の地域領主)の娘として生まれた井伊直虎や彼女をとりまく社会について、史実をもとに解き明かし、直虎に養育てられた井伊直政が徳川家康の天下統一事業を助け、ついには近江国の大名となる彦根藩草創の歴史を紹介します。

■ 日時・内容

- 1月28日(土) 13時30分～16時 第1講 「井伊直虎—井伊氏苦難の時代—」 (青木俊郎)
- 第2講 「井伊直政—赤備えの活躍と彦根藩の成立—」 (渡辺恒一)

- 会場 当館能舞台正面見所
- 定員 120名

- 資料代 200円
- 申込

往復はがき往信の裏面に住所・氏名・電話番号を、復信の宛名面に住所・氏名を明記の上、「入門講座係」までお申し込みください(1人につき1通)。彦根城博物館ホームページからも申し込みできます(応募多数の場合は抽選)。

- 申込期間 12月1日(木)～12月20日(火) 必着



井伊直政画像



彦根城を世界遺産に
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登録されており、世界遺産をめざしています。

編集・発行

彦根城博物館

〒522-0061 滋賀県彦根市金亀町1番1号
TEL 0749(22)6100 FAX 0749(22)6520
http://hikone-castle-museum.jp/



この印刷物は8000部作成し、印刷単価は7円です。